



開腹手術をしない体外受精卵移植で子豚が誕生！

豚の体外受精卵の利用は、これまで受精卵を仮親の子宮に移植するのに開腹手術が必要で、コストや労力がかかることが問題となっていました。

そこで、(独)動物衛生研究所と富士平工業㈱との共同研究で開発された器具(カテーテル)を用いて、手術をせずに体外受精卵を子宮に移植する方法

(非外科的移植)を試み、子豚を誕生させることに成功しました。

この方法によって、母豚の負担を少なく、手術コストや労力も大幅に減らすことができ、今後、品種改良、優良豚の増産、病気の蔓延防止対策など、体外受精卵利用の実用化にますます期待が高まります。(畜産研究部)